

株式会社 みよい

■ 日本一のかぼちゃをめざし、全量直販



〈法人の概要〉

所在地: 〒049-2141 森町字駒ヶ岳 589 番地

代表者: 代表取締役 明井清治

構成員: 2 名(構成農家 1 戸)

役員: 2 名 常時雇用者: 3 名

設立: 平成 19 年 12 月 資本金: 100 万円

事業内容: 野菜/農産物加工、直販

かぼちゃ 34ha、スイートコーン 2.5ha、その他野菜
0.5ha(H22 年)

経営面積: 37ha

売上高: 7,000 万円(H21 年)

電話: 01374-5-2345 FAX: 01374-5-2325

E-mail: miyoi.organic@space.ocn.ne.jp

〈法人のあゆみ〉

昭和 52 年	明井清治氏が 20 歳の時に親から経営移譲
平成 13 年	有機栽培農産物として JAS 認定
19 年	株式会社みよい設立(1 戸 1 法人)
20 年	ホタテ廃棄物をたい肥化して、かぼちゃに施肥
21 年	加工品(ペーストパック、カット冷凍品)の委託製造し販売を開始
22 年	北海道中小企業家同友会函館支部農業部会の立ち上げ参画

〈設立の経緯・設立後の状況〉

- ・昭和 52 年、代表が 20 歳の時、かぼちゃ専業で農業を営んでいた親から突然、経営移譲を受けた。収益性を高めるため、「みやこかぼちゃ」の無農薬栽培をスタート。森町は、かぼちゃ生産地として日本一を目指していることから、代表も町でナンバーワン農家を目指して、かぼちゃ栽培に励んでいった。
- ・翌年、契約栽培をスタートさせて府県や札幌への販路拡大を図るとともに、有機かぼちゃの栽培面積も拡大していった。また、かぼちゃの品質向上を図り、ブランド化を進めるために平成 13 年には有機 JAS 法の認定を受けた。さらに収益性を高めるためには、一般市場や系統集荷では差別化が困難と考えて、独自に販売ルートを開拓していった。
- ・しかし、個人では、事業拡大に伴う新規投資を受けたり、販売信用力を高めたりするには限界があったことと、国などの各種事業の事業実施主体に自らなることを目指してきたことから、平成 19 年 12 月に個別経営を法人経営に移行させ、1 戸 1 法人による「株式会社みよい」を設立した。生産物の品質向上と加工販売を通して、自己の営農努力や理念を正当に価格評価できるような、生産・販売一貫経営を目標とした。
- ・平成 20 年、地域で水揚げされたホタテの殻に付着する海藻などの海洋廃棄物をたい肥化し、土壌のミネラル管理を行い、かぼちゃの糖度を 25 度まで上げるなど、有機栽培にこだわり品質向上に取り組んでいった。また、平成 21 年にはかぼちゃの加工品の製造委託をして販売を開始。規格外品の有効利用を目的に、一般消費者向けのペーストパックと業務用のカット冷凍品を加工品として販売。平成 22 年には、北海道中小企業家同友会函館支部農業部会の立ち上げに参画し、商工業者との関係も強く意識した交流にも努め、経営の視野を広げている。

〈法人経営で生じた課題と対応策〉

- ・法人登記などに関する事務手続きは、司法書士への委託や中小企業家同友会での情報で対応した。
- ・生産物の品質向上のための調査・研究や加工品開発、販路開拓に関しては、人脈を活かして専門性の高い機関から知識などを吸収し、自ら解決を図っていった。加工品開発は、工業技術センターなどの専門機関に相談して対応した。

〈法人経営のメリット・デメリット〉

- ・法人化したことで社会的信用力が高まり、市中銀行との取引もしやすくなり、資金繰りも安定した。また、販売信用力も高まった。
- ・農産物のブランド化が実現できた。

〈法人が継続するためのポイント〉

- ・販路や情報収集に当たっては、仲間や協力者の存在を強く感じるようになった。常に活動範囲を新鮮に保つ必要がある。

〈これから法人化を目指す農業者へのメッセージ〉

- ・農業経営の法人化はすべきだ。
- ・農業者であっても自主・自立を強く意識した経営者であるべきだ。
- ・施策制度に依存するのではなく、活用することを経営者として第1に考える。
- ・不利な状況を他人のせいにはしてはいけない。
- ・経営者はマネージメント能力が必要である。

〈特徴的な活動や取り組み〉

- ・かぼちゃの有機栽培に取り組んでおり、とにかく土作りに力を入れ、ホタテ廃棄物を利用したたい肥と鶏糞を使用している。
- ・冬場は、自ら営業にまわり販路開拓し、出荷先は全国の生協や関東のスーパー、百貨店を中心に全量直接販売している。
- ・品質には自信を持っており、すべての取引先に対して定価販売を実施している。
- ・経営の視野を広げるために、有機JAS関係者や中小企業同友会などの非農業者との関係にも強く意識した交流に努めている。

〈経営目標と将来の展望〉

- ・販路確立と加工品の独自製造を目指したい。
- ・旬の時期に自社で加工できる施設を整備したい。
- ・海外への輸出に向けて積極的に取り組みたい。

〈視察の受入〉

詳細については要相談。視察料は無料としますが、相互の交換情報として代えたい。
連絡先：090-3118-7203（担当：代表取締役 明井清治）